

# 海苔の流通と消費を考える

平成29年9月3日(日)

佐賀市

海苔産業情報センター

佐藤 尚司

# (1) 平成28年度漁期結果から見える傾向

## ①今漁期当初は27年度同様有明含め不作傾向で始まる

- ・佐賀、福岡有明はプランクトン増加、栄養低下で冷凍網出庫が年明けに。
- ・特に下もの価格高騰でこれまで以上に生産意欲が落ちず、共販枚数は最終的に前年越え産地が多数、金額は全産地上昇。

## ②全国的には10円以上での落札が9割。

- ・前年度より平均単価は1円56銭高に。
- ・昨年度、一昨年度の全国共販金額が約850億円だったが、今年度は約980億円と大幅増加。

## ③さらに産地間格差の縮小、“価値”の幅も

# 平成28年度漁期及び過去3年間の単価推移

	28年度	前年度	27年度	前年比	26年度	前年比	25年度	25年度から3年間上幅
共販漁連	平均単価		平均単価		平均単価		平均単価	
宮城	12.42	2.48	9.94	1.10	8.84	0.67	8.17	4.25
千葉	13.38	1.04	12.34	1.89	10.45	0.78	9.67	3.71
愛知	13.06	1.20	11.86	1.22	10.64	1.50	9.14	3.92
三重	11.86	1.20	10.66	0.73	9.93	1.57	8.36	3.50
東日本計	12.64	1.66	10.98	1.10	9.88	1.08	8.80	3.84
兵庫	11.65	1.10	10.55	1.41	9.14	0.83	8.31	3.34
岡山	11.37	1.59	9.78	1.18	8.60	2.02	6.58	4.79
広島	10.68	1.40	9.28	1.80	7.48	1.39	6.09	4.59
徳島	10.82	0.76	10.06	1.41	8.65	0.94	7.71	3.11
香川	11.09	0.93	10.16	1.48	8.68	1.44	7.24	3.85
愛媛	11.58	1.60	9.98	1.46	8.52	0.95	7.57	4.01
瀬戸内計	11.48	1.11	10.37	1.44	8.93	1.04	7.89	3.59
福岡	11.39	1.76	9.63	1.30	8.33	0.92	7.41	3.98
福岡有明	13.81	1.69	12.12	0.19	11.93	2.09	9.84	3.97
山口	10.54	1.03	9.51	2.01	7.50	1.68	5.82	4.72
佐賀有明	14.43	1.62	12.81	0.97	11.84	1.08	10.76	3.67
長崎	12.24	2.73	9.51	0.35	9.16	1.67	7.49	4.75
熊本	13.94	2.35	11.59	0.86	10.73	1.66	9.07	4.87
大分	10.40	2.19	8.21	1.23	6.98	1.80	5.18	5.22
鹿児島	15.11	-0.86	15.97	3.72	12.25	1.98	10.27	4.84
九州計	14.06	1.76	12.30	0.71	11.59	1.55	10.04	4.02
漁連計	13.08	1.55	11.53	1.04	10.49	1.29	9.20	3.88
全海苔計	12.40	1.70	10.70	1.56	9.14	1.38	7.76	4.64
総合計	13.07	1.56	11.51	1.03	10.48	1.30	9.18	3.89

■ : 大産地で上昇した県

■ : 小産地で上昇した県

## (2) 海苔流通の現状は①

### ①3年間で全国平均が3円89銭上昇

- 平成16～24年度まで全国平均9～8円で推移。
- 平成25年度の大減作以降、生産数量の減少で堅調なコンビニ需要対応に必要な海苔はさらに逼迫。
- 質と価格のバランスが悪化し販売面で苦慮。

### ②節約・低価格志向の中、値上げ交渉の難しさ

- 値上げの話がテレビ等メディアが多く取り上げ。数%～15%程度までの値上、入り枚数調整の承認一部あるも切り替え遅れなど難しい面も。
- 値上げ交渉の頭打ち感。将来的な海苔使用方法(枚数、産地、海苔のサイズ)にもさらに影響する可能性。

## (2) 海苔流通の現状は②

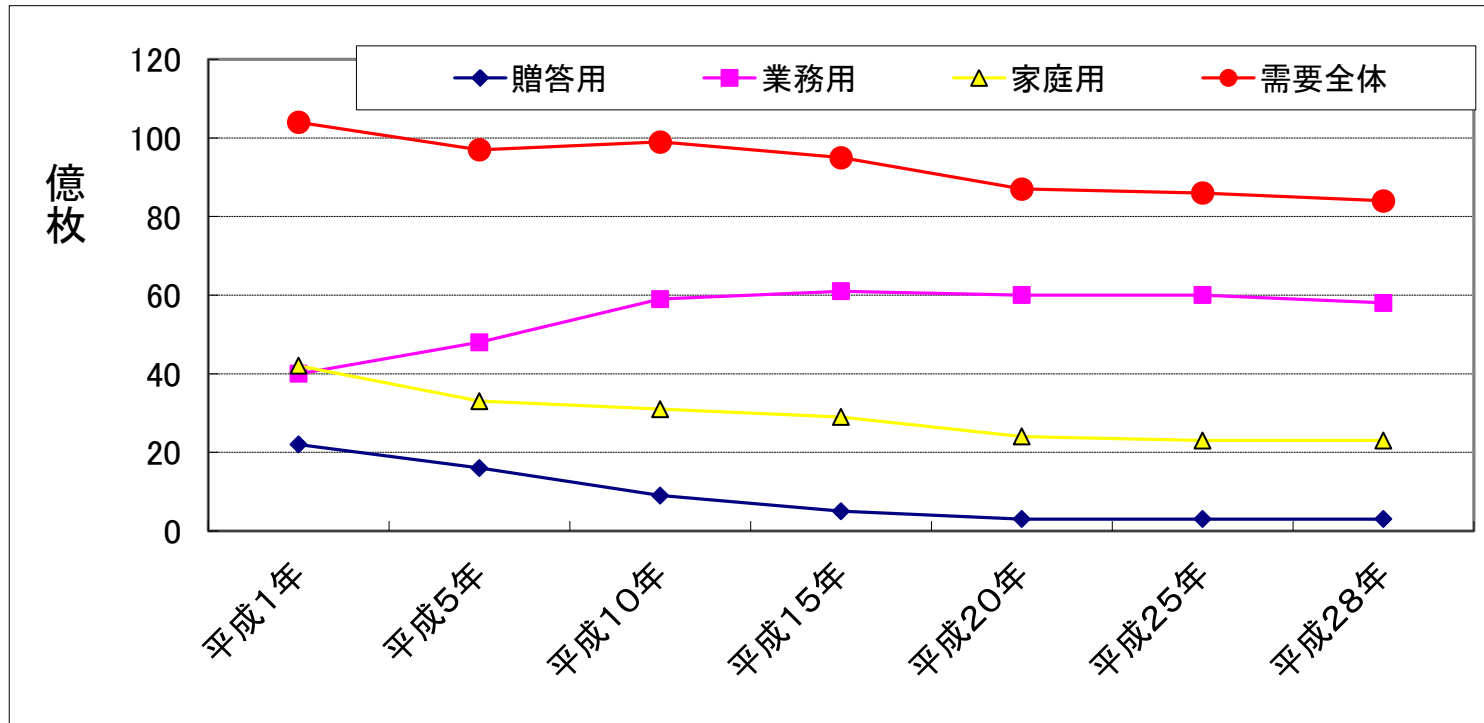
### ①コンビニなど業務用などの一部除き 上もの、家庭用苦戦か

- 一方、コンビニも使用海苔の確保に苦慮。  
実際に使用方法(枚数)や産地の変化も顕著に。



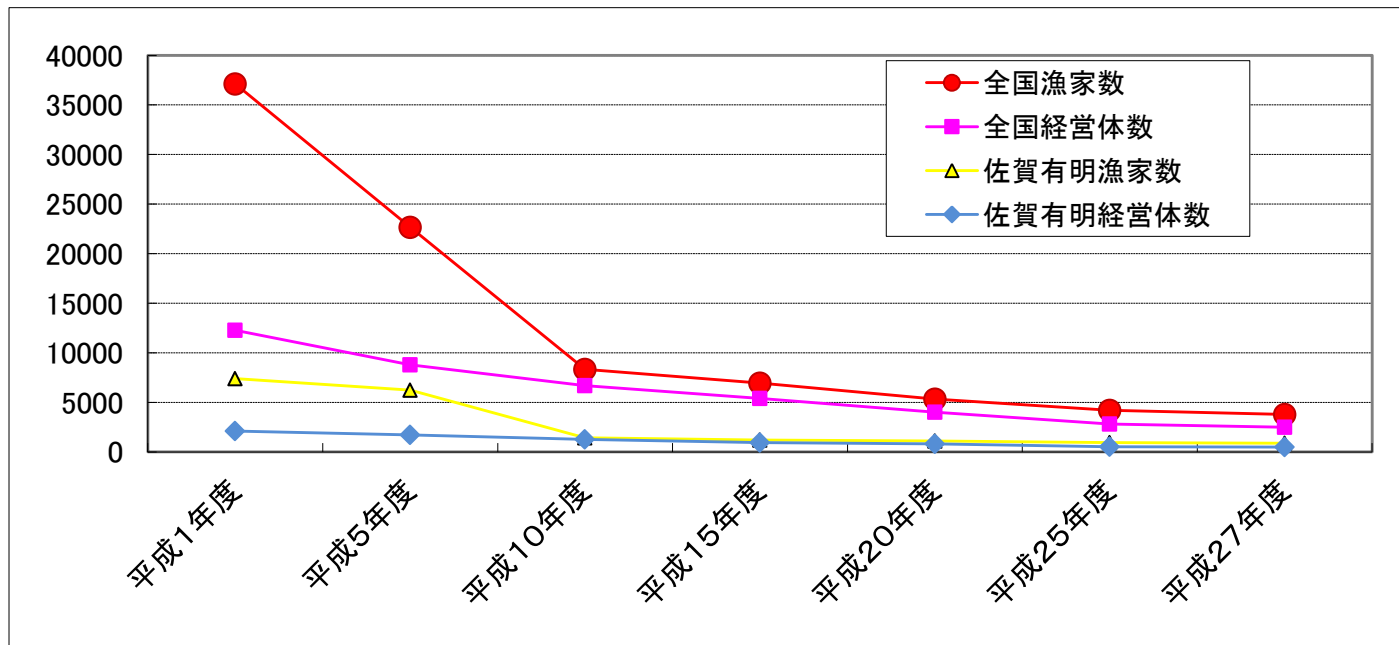
## ②平成1～28年までの海苔形態別需要状況

- 昭和の終わりから平成に入った直後までは、バブル景気とともに贈答用需要が旺盛で生産量も100億枚と好調だった。しかし消費税増とバブル崩壊で景気が悪化しだすと、需要を促すよう販売価格も下がり始める。その一方で生活スタイルや食生活の変化でコンビニを含めた業務用市場が伸び始める。



### ③平成に入ってから海苔漁家数推移

- 平成29年度は現時点で80～90名前後の全国漁家減少予想。  
(東日本・20～25名、瀬戸内・3～5名、九州・50～60名)  
全国漁家数が3,500名台になる予想。  
佐賀、兵庫大産地などの10年後における生産者予想では、現在から3～4割の減少見込み。産業維持には後継者の確保・育成は必須！！  
まずは、これから5～10年後先の予想される漁家年齢構成把握が必要。



## (3) 外国の生産地；韓国と中国の状況

### ①韓国の今漁期と輸入海苔入札結果

#### ○生産枚数・141億（前年度・127億枚）

・日本同様、年内生産は芳しくなかったが相場は強かった。年明け以降2月頃から生産が良くなり、3月に入ると一端強かった相場がやや緩んだものの他国（中国、日本）の生産数量の悪さも手伝い、その後は漁期終了まで強い相場が続いた。相場高騰で生産意欲も維持し、前年度生産を14億枚程度上回った。

・年平均の原藻価格は1,103ウォン/kg（前年度・1,014ウォン/kg）で昨年度から約1割高、前々年度からだ約4割高に。

#### ○5月17日、大森で需要者割当入札会

・「干しのり」成立枚数4億4,609万枚（前年度・3億679万枚）。成約率99%（同・83%）。平均単価8円68銭（同・7円02銭）で前年度より1円66銭高。



## ②中国の今漁期

◇出品枚数・約31億枚（前年度・約37億枚）

◇成立枚数・約22億枚（同・約33億枚）。

◇100枚当りの平均単価・68.79元（同・31.72元）

- ・漁期当初から生産不良をはじめ、特に海苔に海藻が絡み生産できない状況。特に南通地区の生産が悪く、成立枚数は前年度の2/3。一方、平均単価は前年度の倍以上になる高騰ぶり。

## (4) これから海苔産業発展に必要な事項

### ①柔軟な共販体制の再構築、等級・検査体制の見直し

- ・ 商社と海苔のマッチングをより追及（作り手と売り手が互いに独りよがりな生産・販売に陥っている傾向の解消。連携の重要性）。

### ②消費者の声を聞く、嗜好品としての価値の追求、女性目線必要

- ・ 健康食品、嗜好食品として原藻基点から作りこむ商品開発の急務。

### ③海外普及への挑戦

- ・ 日本の人口減や高齢化を考えると、値段ではなく価値訴求。相手国の食生活の研究とそれに合わせた海苔を使った食べ方の提案。佐賀は県主導でフランス料理界の重鎮を招聘日本食以外の違った食べ方を考えると幅が広がるのでは、と指摘。

# 《プロフィール》

海苔産業情報センター・「海苔ジャーナル」編集部長

佐藤 尚司(さとう しょうじ)

昭和46年広島生まれ

平成8年3月、水産大学校増殖学科卒業後、食品会社等に勤務。

平成15年10月、海苔産業情報センターに入社。

海苔業界紙記者として取材活動すると同時に、関連会社である(株)食品産業情報センターでは、「絵巻すし教室」等の海苔普及イベントの企画、運営に携わるなど、海苔の需要拡大に努めながら現在に至る。

趣味：読書